

あまり、詳しい説明は受けられなかった。

僕も、伝統や習慣には異論はないが、その由来には強い興味があった。

後で、信者の臼井君にも僕は尋ねた。

「信者の中には、キリストが神であると信じるからこそ、全面的に、神の子であるキリストの教えを信じているのもいるだろうネ。キリストが自分は神だと言ったそうだがそれをどの様に証明したんだろうね。奇跡が起こったと言うが、それを記した聖書が全面的に真実であると皆は納得して信じているのだろうか。」と話した。

臼井君は真面目な顔で、調べとくと、僕に言った。

僕は、その様な根本的な事をよく理解しないまま、うそだとか、本当とか決めつける気持ちには全くなかった。しかし、一種の批判的な感じを与えた可能性はあった。僕も、信者でなくても、人に聞く前に、自分もちゃんと今度、時間を作って、真面目に、調べようと思った。神の存在と、そして、神の子、キリストのことを。

四時四十二分の急行。

帰宅後、しばらく、下で聖書を読みふけた。風呂に入り、めしを食い、寝る。